

# 李氏朝鮮期中国語会話テキスト 『朴通事』に見られる存在文について

关于李氏朝鲜时代汉语课本《朴通事》里的存在句

玄 幸 子  
GEN Yukiko

本文以李氏朝鲜时代所使用的汉语课本《朴通事》为语言资料，对存在句进行整理分析。举出资料中的实例，并以对照《朴通事谚解》《新释朴通事》这新旧两种资料的方法，总结了《朴通事》存在句的具体特点。从来有些论文主张‘有’字句宾语前移是受到蒙语影响的‘汉儿语言’特征之一。但是通过这次整理过程认为，所谓宾语前移不是“汉儿语言”的特征，而是自古至今使用的汉语句型（强调/并列/比较），好像与‘主题化’有关。

## キーワード

存在文 口語 目的語前置 通時研究 朴通事

## 1, はじめに

現代中国語における存在文は、存在現象文の一種であり、ある場所に人や物が存在する事を表す特殊な文型である。Ramsey 1986において「世界中の言語でも、所有を表す基本動詞の存在はまれであるように思われる。……そして東アジアの言語では、所有は存在を示すことばで表現されるのが一般的である。」<sup>1)</sup>とあるが、中国語の所有を表す基本動詞“有”は存在文で用いられる基本動詞でもあり、用法が多岐に渡り大きな特徴を有する。よって、語法書では、他の特殊な文型である“把字文”“被字文”などと同様に“有字文”として特別に項目を立てるのが一般的である。

さらに、このような基本動詞の特殊性と同時に、存現文が特殊な文型として、ことさらに取り上げられるのはその語序による。中国語最初のGrammarの専著とされる『馬氏文通』(1898)では、「同動助動四之四」の条で、行為を表す一般的な動字（動詞）とは別に、行為を記さず不動の状況のみ言うとして〈有〉〈無〉〈似〉〈在〉をとりあげる。語序について明確な説明はみられないものの、〈有〉には通常起詞がない場合があるのに対して、〈在〉は必ず起詞を必要と

するという記述から、古典にあってもこの二者（存在文の動詞の〈有〉と普通動詞〈在〉）の構文上の差異は明らかに認識されていることが分かる<sup>2)</sup>。

また、話し言葉における記述としては、趙元任1968:323も次のように主語倒置という枠組みの中でとらえ、その特徴を指摘している<sup>3)</sup>。

*So far as our definition of the V-O construction is concerned, examples of the latter type satisfy the definition and must therefore be analyzed as verb-object, even though the object is the agent word.*

ところで、現在の学校教育の場における存在文のとらえ方は、教科書によく見られる次の文型にあらわれている。教学では普通動詞の“在”の文構造と対比して説明するのが主流となっている。

場所詞 + 有 + 人・物 例) 桌子上有一本书。机の上に本が1冊ある。

人・物 + 在 + 場所詞 例) 那本书在桌子上。その本は机の上にある。

つまり規範文法では、存在文はこの語序（場所詞 + 有 + 人・物）が基本であり、これを逸脱する場合は誤用、或いは不正常と捉えているとするのが大方一致した認識であると考えてよからう。

そこで、歴史的考察にあっても同様の見方をする場合が多く見受けられる。例えばここで調査対象とする李氏朝鮮期中国語会話テキスト『朴通事』に関する近年の研究状況を見てみよう。梁伍鎮 1998では、「6. 2 ‘有’ 와 ‘没’ 의 사용 (‘有’ と ‘没’ の使用)」で次のように述べる。

현대 漢語에서 동사 ‘有’ (있다) 는 명사성 목적어의 앞에 놓이어 ‘소유’ 또는 ‘존재’ 의 의미를 나타내며, 사용 빈도가 매우 높은 단어이다. 그런데 ‘老朴’ 에서의 ‘有’ 는 현대 한어에 비해 기타 동사와 마찬가지로 어순상의 특징을 나타내는 외에, 그 용법과 의미상에 있어서도 독특한 면을 찾아 볼 수 있다.

우선 어순에 있어서 ‘老朴’ 에서는 ‘有’ 가 목적어의 뒤에 놓인 경우가 눈에 띄게 많이 나타난다.<sup>4)</sup>

現代中国語では動詞 ‘有’ (ある、いる) は名詞性目的語の前に置かれて“所有”または“存在”の意味をあらわし使用頻度が非常に高い単語である。ところで、“老朴”での“有”は現代中国語と比べると他の動詞と同様、語順上特徴があり、その用法と意味においても特徴的な面が見られる。

まず、語順において“老朴”では“有”が目的語の後におかれる場合が眼について多くあらわれる。

① 快打刀子的匠人那裏有 (「朴諺」上15-1)

> 不知那一家打的刀子最好 (「朴新諺」1-17b)

李氏朝鮮期中国語会話テキスト『朴通事』に見られる存在文について（玄）

- ② 賣狹皮的好狹皮有麼（「朴諺」上29-1）
  - > 賣狹皮的 你有好的狹皮麼（「朴新諺」1-31b）
- ③ 我家裏書信有麼（「朴諺」46-1）
  - > 我家有書信帶來麼（「朴新諺」1-49b）
- ④ 車子有麼（「老諺」上60-1）
  - > 有車子沒有（「老新」21-2）
- ⑤ 孳畜頭口有來 人口奴婢有來（「老諺」下43-2）
  - > 又有騎坐的牲口 使喚的奴婢（「老新」38-1）<sup>5)</sup>

‘老朴’ 에서는 이상 예문과 같이 동사 ‘有’ 를 사용한 문장의 목적어가 ‘有’ 앞에 놓이는 경우가 정상적인 어순보다 더 많이 나타나고 있으며「新釋」에서는 대부분 정상적인 어순으로 바뀌었음을 보아 낼 수 있다. 이러한 현상은 역시 ‘老朴’ 에 元代漢語의 영향이 남아 있다는 증거로 볼 수 있을 것이다.

“老朴” では以上の例文のように、動詞“有” を使用する文の目的語が“有” の前に置かれる場合が正常な語順より更に多く現れており、『新釈』では大部分が正常な語順に改められているのを見いだすことができる。このような現象はやはり“老朴” に元代漢語の影響が残っている証拠として見るであろう。

（下線は筆者による）

さて、中国語における存在文の所謂「正常な語順」とは何をいうのであろうか、また、“老朴” から『新釈』への存在文に係る書き改めは、元代言語から清代言語への変遷過程を反映した結果なのか、或いは他の要素が考えられないだろうか、これらの問題の回答を得るために、本稿では『朴通事諺解』と『朴通事新釈』の二資料にあらわれる存在文を中心に調査をし検討を加える。

## 2. 存在文の出現状況

大きく二つの類型に分けて、出現状況を示す。つまり、動詞“有”とそれ以外の動詞について存在文の現れ方を見てみよう。

### 2.1 “有” 以外の動詞の出現状況

まず、ほぼ書き換えがないか、或いは表現が全く異なっている用例を挙げる：

- (1) 朝南開着一箇小墻門便是 【朴諺】【新釈】第30話（以下数字のみを記す）
- (2) 那家門前兀子上放着一箇三隻脚鐵蝦蟆兒便是 【朴諺】82

那藥舖門首櫃子上**放着**一箇三脚鐵蝦蟆的便是了 【新釈】 82

(3) 寫着甚麼裏 【朴諺】 98 寫着甚麼哩 【新釈】 98

(4) 房上生出那草 【朴諺】 62 房上生出那些草 【新釈】 62

(5) 不知道那裏**躑死**了一箇螿蜒。【朴諺】 79 (不知那裡來的這些螿蜒 【新釈】 79)

(6) 你那腮頰上**長的**甚麼瘡。【新釈】 5 (你那腮頰上甚麼瘡 【朴諺】 5)

(4)(5)(6) は存在文ではなく現象文であるが、いずれにせよ以上の用例は現代語とほぼ差異はないといえよう。不定のマークである“一箇”があるのはまさに存現文の特徴を示しており問題がないのであるが、ただ、(4)の指示詞“那”は少し注意する必要があるだろう。

注目に値する用例は次の通りである。

(7) 纔只掾史們將文卷來, 紫羅書案上展開。【朴諺】 86

案上又**堆着**許多案件。【新釈】 86

(8) 大明殿前月臺上四角頭立地的四箇將軍, 咳, 那身材身長六尺 【朴諺】 92

大明殿前月臺上四邊**站着**四箇將軍, 咳, 那身長六尺 【新釈】 92

(9) 為頭兒門外前**放**一箇卓兒。上頭**放坐**一尊佛像。【朴諺】 98

大門外**放**一張桌子。上面**供着**一尊佛像。【新釈】 98

(7)(8)(9) 例を通じて考えられる事は、アスペクト助詞“着”の機能の拡張、固定化との関連である。が、これに関しては、別に稿を改める必要があるだろう。また、(8)の“供着”は単純に“放坐”と同義であると判断してよいかどうか、疑問が残る。「仏像にお供えをしている」と解釈した場合、存在文ではないからである。

むしろ、気になるのは“放”の用法である。第98話は曹家の葬儀に参列したという話題であるが、夜に参列した法要の様子を説明するくだりであるので、「(まず) 表門の外に一つテーブルが置かれてあり、その上には～」という内容なので、例(2)の“放着”と同じ用法と思われる。が一方、第1話では、使用人に指示を出す場面で“那氷盤上放一塊氷”(その氷盤に一塊り氷を置け)【朴諺】 1という表現でも“放”が使われており、「置く」動作も「置いてある」状態も同じ“放”で表していることになる。よって、動作を言うのか、状態を言うのかは、前後の文脈によって判断するしかない。

最後は動詞“是”を使う用例である。何れの資料にもみえる。

(10) 有細絲官銀 【朴諺】 38

是細絲銀子 【新釈】 38

(11) 後頭又是箇茶博士們 【朴諺】 100

## 2.2 “有”の出現状況

### 2.2.1

まず、古来から現在に至るまで、存在文の典型的文型に外れない用例は次の通りである。

- (12) 這裏有獸醫家麼？ 那紅橋邊有一箇張獸醫 【朴諺】 20  
這裡有箇做獸醫的人家麼？ 那紅橋邊有一箇張獸醫住着 【新釈】 20
- (13) 這鋪裏有四季花段子麼？ 【朴諺】 60  
你這鋪裡有四季花的段子麼？ 【新釈】 60
- (14) 雨晴了也。街上有路麼？ 【朴諺】 71  
雨纔晴了。街上有路好走麼？ 【新釈】 71
- (15) 北京外羅城有九座門。 【朴諺】 101  
北京城共有九座門。 【新釈】 101

このような用例は、枚挙に暇ないほど普遍的に見られる。

### 2.2.2 有 → 在

次に【朴諺】の“有”を【新釈】で“在”に改める例が数例みられる。

- (16) 其餘的伴當們家裏有着 【朴諺】 52  
其餘的小廝們在家 【新釈】 52
- (17) 編修相公有麼？ 小廝道，我相公不在家。 【朴諺】 106  
你相公在家麼？ 我相公不在家。 【新釈】 106
- (18) 高麗來的秀才有麼？ 書房裏坐的看文書裏 【朴諺】 106  
高麗來的秀才還在此住麼？ 在書房裡看書哩 【新釈】 106
- (19) 賢尊令堂有麼？ 【朴諺】 106  
先生令尊令堂俱在堂麼？ 【新釈】 106

例(16)は務めに出かける主人が使用人に指示を出している場面であるが、「残りのものは家にいろ」という言葉である。ここの“着”は古くは“者”とかかれた命令の語気助詞である。“一壁有者”（そばに控えおれ）という連語がすぐに連想されるが、この“有”はすでに多くの指摘があるように元代の言語の特徴を反映していると考えるのが妥当であろう<sup>6)</sup>。また、(17)-(19)についても同様である。(17)-(19)は沈進中と葛敬之という二人の人物が高麗からきた秀才（書生）の韓彬に会いに張編修宅へやって来た時の会話である。(17)(18)は、張旦那と秀才（書生）が在宅しているかどうかを尋ねているのであり、(19)は韓彬に両親が健在かどうかを尋ねている挨拶用語である。やはり元代特有の“有”の用法であると考えられる。

同じ第106話の中に見える次の用例は、“在”から“有”へ書き換えられ、一見逆の書き換えのように錯覚をしてしまうが、語序が存在文の基本に戻っているので問題はない。

- (20) 沈先生在門前裏。 【朴諺】 106  
外面有沈相公同客來奉拜。 【新釈】 106

### 2.2.3 目的語前置の用例

さて、梁伍鎮 1998で「大部分が正常な語順に改められている」とする“有”の前に目的語がおかれる用例はどうだろうか。まず、書き改めの状況を見ると、前述の①～⑤以外の書き改めは、次の数例しか見られない。

- (21) 燒子珠兒好的有麼? 【朴諺】 89  
 你有好假珠子麼? 【新釈】 89
- (22) 精神便別有 【朴諺】 26  
 精神自然爽快了 【新釈】 26
- (23) 車輛都有麼? 【朴諺】 45  
 車輛都做妥當了麼? 【新釈】 45
- (24) 葱白素通袖膝欄段子有麼? 【朴諺】 60  
 要南京來的鴉青色月白色這兩樣段子 【新釈】 60

梁伍鎮 1998で挙げられた「朴通事」の用例を再度確認すると、次の通りである。

- ① 快打刀子的匠人那裏有 > 不知那一家打的刀子最好  
 ② 賣狹皮的好狹皮有麼 > 賣狹皮的, 你有好的狹皮麼  
 ③ 我家裏書信有麼 > 我家有書信帶來麼

純粹に語順の書き換えが行われたと考えられるのは、例(21)と②③の3例のみだといえる。では他の状況はどのようになっているのかというと、

	【朴諺】	【新釈】
・第66話	替的官人有麼	接任的官有了麼
・第81話	培磚都有麼	炕面磚都有麼
・第85話	木植都有麼	做的木料都有麼
・第93話	硬麵燒餅都有	硬麵火燒都有
・第97話	好畫匠那裏有	好畫匠那裡有
・第99話	乾的煤筒兒有麼	乾煤筒子還有麼

のように、語序をそのまま踏襲する場合がむしろ多いといえる。また、書き換えに注目すると次のごとく逆方向の書き換えや『新釈』のみに見られる特殊な文型もあり、一概に規範的言語の歴史変遷を反映しているとは言えないのである。

- (25) 那裏有賣的好馬? 東角頭牙家去處廣, 那裏有一箇土黃馬好本事。【朴諺】 33  
 那裡有賣的好馬? 大街東市上馬牙子家有。【新釈】 33

例(25)は『新釈』のほうが“有”の後に来るべき目的語が省略された形となっている。

- (26) 寫定文書借與他來。【朴諺】 16  
 現有借票在我手裡。【新釈】 16
- (27) 看東西在那裏時, 【朴諺】 59

看有東西在那裡。【新釈】59

(28) 黑夜道場裏你有來麼？<sup>7)</sup> 【朴諺】98

昨夜做道場。有你在哪裡麼？【新釈】98

(26) の用例のみであるなら、句点をうって、“現有借票，在我手裡”（現に借用書もあるぞ、私の手の中に）と解釈ができよう。あるいは(27)の用例も個別には「(盗む)物があるか、どこにあるか、をみる。」というように、“有東西”“在那裡”を動詞“看”の並列目的語ととらえることもできようが、例(28)とあわせて考えると、これはやはり“有～在～”の文型であるとすべきであろう。

#### 2.2.4 目的語前置の妥当性

ここで、目的語が前置される場合、それはどのような位置づけになるのかを確認しておく。まず、現代語の扱いであるが、刘月华 2001<sup>8)</sup>では

表示存在的事物名词也可以放在“有”之前作主语。例如：

(①-⑥ 例文略)

这类句子的主语多为并列名词（短语）或“的”字短语，“有”的前面一般要用副词“都”或“也”，“有”后不能再带宾语。这种句子有突出“存在”的事物作用。と説明しており、目的語前置を認めている。

また、吕叔湘《现代汉语八百词》增订本<sup>9)</sup>においても、次のように説明をする。

2. 表示存在。句首限于用时间词语或处所词语。‘有’后面为存在的主体，有时可提到‘有’前。否定式为‘没有、没’。

桌子也～，椅子也～，就差几个书架。(例文一部省略)

つまり、“有”の後には存在する主体がくるが、時には‘有’の前に置く事も出来ると明示しているのである。

では、現代語で許容される目的語前置がなぜ「正常でない」ととらえられるのか。一つの可能性として、異民族の言語干渉と融合の結果、元代以降定着して許容されるようになったという考え方がある。つまり、悠久の歴史を有する正当な規範である文言の枠組みの中ではとらえにくいという事である。それならば、当然四書五経の中に現れるべきではないということになる。

この問題に関して、吕叔湘《中国文法要略》は非常に興味深い示唆を与えてくれる。重要な項目だと思われるので、関連箇所（pp.64-68）をそのまま引用する。

有无句

5.61 有无句可分两类：有起词<sup>10)</sup>的和没有起词的。先说：

(甲) 无起词的有无句。例如：

你老可要我做什么呀？有跑堂儿的呢？（儿四）

你走罢，没你的事。

岂有此理！

有人于此。

这一类有无句单纯表示事物的存在，也可以成为「存在句」。这些句子里面的「理」「人」等词，是「有」的起词呢，还是他的止词呢？是止词。何以见得？假如我问：「有此言乎？」你可以回答「有之」，这个「之」字照例只当止词用，这是一个证据。又如说「所有的书」，这个「所」字照例也只指示下面的名词原来是止词或补词（见 6.6），这又是一个证据。所以我们不必模仿英语，把这些词当作起词，但是就这种无起词的句式而论，却不不妨当作句子的主语。

这些止词，有时可以倒在「有」字之前，如：

晚饭有了，可送不送？（红五八）

只怕逛腻了的日子还有呢。（红六〇）

苗而不秀者有矣夫，秀而不实者有矣夫。（论语）

可是仍然不能认为「有」的起词。文言里通常要在「有」字后面补一个「之」字，这就表示那个名词虽然用作句子的主语，可是对于「有」字还是个止词。例如：

苗而不秀者有之，秀而不实者亦有之。

……

（下線筆者）

『馬氏文通』が分析対象としたのが文言であったのに対して、呂叔湘《中国文法要略》は文言と白話の両方に対して、古典から現代文までを分析対象とした。ここで初めて自然言語に対する客観的分析の萌芽がみられるのである。

さて、引用に明記されるように呂氏は「これらの止詞（目的語）は、ときに“有”字の前に倒置することができる」と目的語前置を認めた上で、『紅樓夢』の用例2例と『論語』の用例1例を挙げている。

『紅樓夢』第58回 は奥の台所を預かっている老女のせりふ、第60回は柳の妻女のせりふである。また、『論語』の用例について、該当箇所従来の解釈を示せば次の通りである。

苗にして秀でざる者有り。秀でて実らざる者有り。せっかく苗として植えられながら、穂を出さずじまいのものも、なるほど、この世の中にはある。またせっかく穂を出しながら、実をつけずに、枯れ死ぬものも、なるほどある。……「有矣夫」の三字は、はげしい感動をあらわす言葉つきであって、「有るかな」と読んでも、よいであろう。『論語』（上）吉川幸次郎監修 朝日新聞社 p.313



（下線筆者）

以上を総合すると、先に示した可能性とは異なる状況が明らかになったといえよう。つまり、“有”存在文の目的語前置は、元代に特有のものではなく、古来よりとりわけ口語資料において継続的に見られる現象である。

### 3, まとめ

李氏朝鮮期中国語会話テキスト『朴通事』における存在文を調査した結果、顕著な特徴として動詞“有”より前に目的語が倒置されるという現象がみられる。従来の研究ではこれをモンゴル語の影響を大いに受けたと考えられる元代言語の痕跡を残すものとしてとらえるが、本稿では、口語資料の特徴としてとらえるのではないかという可能性を示唆した。今後、他の口語資料による確認作業、また、何故口語において前置されやすいのか、といった理論付け、などが必要になるだろう。現時点では、主題化、“左移位”の観点から説明が出来るのではなからうかと考えているが、今後の課題である。

なお、今回の調査に付随して明らかになった点を以下に箇条書きで記して付録とする。

- 1, 『新釈』では介詞の使用が顕著に増加している。
- 2, 不定を表す“有”の用例が、『新釈』でかなり増加している。
- 3, 動詞の前の“有”の用例は『朴諺』が多く見られる。
- 4, 否定形は『朴諺』の“没”が大部分『新釈』で“没有”に改められている。
- 5, 以下の例のように現象文ではなく“有”字存在文で表している箇所が見られる。

・第34話 早起家裏有客人来。【朴諺】 早起家下有客来。【新釈】

・第84話 這幾日我家裏有人去。【朴諺】 這幾日我家裡有人回去。【新釈】

これらの特徴を合わせて考察する事で、また、異なる分析の可能性が出てくるかもしれない。ただ、本稿では備忘のためメモを残すにとどめる。

#### 注

- 1) 『中国の諸言語』 p.99 (S. R. ラムゼイ著 高田時雄他共訳 大修館書店 1990)

原文は以下の通り。引用箇所は、下線部である。

The one exception to this rule is the verb of existence *yǒu*, for which there is the special existential negative *méi*: *Yǒu píjiǔ ma? Méiyǒu*. ‘Is there any beer?’ ‘No, there isn’t; *Zhèr méiyǒu rén* ‘There is no one here.’ The verb *yǒu* is also used to show possession, but this function follows from its primary sense of existence; without stretching the point too much, a sentence like *Wǒ yǒu qián*. ‘I have [some] money’ can be thought of as meaning ‘[By or to] me there is money.’ Among the

languages of the world a basic verb of ownership seems to be rare — even English “to have” probably had an original meaning in Germanic more like ‘to hold, grasp’ — and among the languages of East Asia possession is generally expressed in terms of existence. Part 1 : The standard (Grammar) Verbs p.73 The Languages of China, 1986 by Ramsey, S. Robert

2) 凡動字所以記行也；然有不記行而惟言不動之境者，如〈有〉〈無〉〈似〉〈在〉等字，則謂之『同動』，以其同乎動字之用也。…… 〈有〉〈無〉兩字，用法不一，有有起詞、有止詞者，有有起詞而止詞則隱見不常者。若記人物之有無，而不明言其為何者所有、何者所無，則有止詞而無起詞者常也。〈在〉字必有起詞，而後繫者為止詞、為轉詞無常。(〈同動助動四之四〉 pp.226-227 馬建忠著 章錫琛校注《馬氏文通校注》1988 中華書局)

3) 5.4.7.1. “Inverted Subjects” and “Inverted Objects”, p323-324, “A Grammar of spoken Chinese” by Yuen Ren Chao, University of California, Second printing, 1968

4) 梁伍鎮《老乞大朴通事研究》pp.249-250, 太學社, 1998

5) 原文には諺解部も引かれているが、ここでは検討しないので省略する。また、資料の略称は、「朴諺：朴通事諺解 朴新諺：朴通事新釈諺解 老諺：老乞大諺解 老新：老乞大新釈」(梁伍鎮 1998 : p.14) ということである。

6) 佐藤晴彦1994 : 31-48 〈一壁有者〉考、『神戸外大論叢』45-7 ; 金文京1988 : 189 漢字文化圏の訓読現象、『和漢比較文学叢書 8 和漢比較文学研究の諸問題』(汲古書院) など参照。

7) この文について、解釈が2通りに分かれているので、従来の研究状況を以下に紹介する。

孫錫信 1992では次のように説明をする。抄訳を示すと、

(“有”は) 動詞の前に用いて動作行為の適切性と可検証性を示し得る。例えば、

你那里有来? 这两日不见。你来怎么这般黄瘦? (《朴》72)

黑夜道场里你有来么? 我有来。(《朴》343)

我有认色了, 不拣几时要换。(《朴》154)

“你那里有来?” の文に対してはすでに解釈がなされている、つまり、“有”が“在”の意味であり、“来”が“来着”に相当し、“你那里有来?”は“你在哪儿来着”の意味であると認識する。しかし、このような解釈は“我有认色了”に適応できない。このタイプの文にはまた別の解釈ができると考えられる。つまり、“你那里有来”は“你那里来的”の意味であり、この“来”は、後文の“你来怎么这般黄瘦”の“来”と同じく動詞に属し、助詞“来着”とは見なせない。“黑夜道场里你有来么”は“黑夜道场里你来了(或いは‘的’)吗”と解釈でき、“我有认色了”の方は“我认了色了”(“色”はお金の品質を指す)と解釈できる。このような解釈に基づけば、“有+動詞”は“動詞+了”あるいは“動詞+的”に相当する。

〈“有”和“没”〉《汉语历史语法丛稿》(汉语大词典出版社 1997) pp.116-118

(原所収《近代汉语研究》商务印书馆 1992.10 pp.293-295)

上記、孫錫信 1992で否定されているのは楊联陞1957 : 《老乞大朴通事中的语法词汇》(台湾中央研究院《历史语言研究集刊》第二十九, 《庆祝赵元任先生六十五岁论文集》上册所收) である。

8) 《实用现代汉语语法》p.695

9) 商务印书馆 1999 p.631

10) ターム“起词”“止词”および語序の問題について関連箇所を以下に引用する。なお、挙げられている用例は適宜省略した。

3.1 起词和止词 p.28

……把一件事情说清楚, 必须说明这个动作的起点起于何方, 止于何方, 如图解 :

动作起点（猫）——动作（捉）——动作止点（老鼠）

### 3.9 两成分句的词序 p.39-41

此地要讨论的是两种特殊的二成分句，（甲）是只有起词和动词而起词在后的，（乙）是只有动词和止词的。分别举例如下：

（甲）女儿愁，绣房里钻出个大马猴。（红二八）

.....

（乙）殿前放着个大铁香炉，又砌着个大香池子，.....

.....

这两类句子，就（甲）类而论，那动词后面的名词分明是他的起词，就（乙）类而论，分明是他的止词。两类相同的的一点，就是句子的头上都有一个处所词（只有.....句是例外）。

所以（甲）类的词序是[处一动一起]，（乙）类的词序是[处一动一止]。然而这两类句子，我们感觉属于一个类型的。又如下面的例句，同句之内，（甲）（乙）两式混合一起，我们丝毫不感觉句式的变易，这也是一种证明（甲式的动词加[°]，乙式的动词加[·]）。

离门约有一箭多远，横着一道溪河，河上架着个板桥。（几一四）

.....

这应该如何解说呢？这个时候我们就要在起词和止词以外另找一个观念来应用，这就是[主语]。我们可以说这两类句子的动词后成分对于动词虽有起词和止词的分别，对于句子则同为主语，这就是我们的同一类型之感的由来。到了不以动作为中心的句子里，这主语的观念就更加重要了。

#### 使用テキストと本稿で用いた略称

『朴諺』 『朴通事諺解』 奎章閣叢書第八

『新釈』 『朴通事新釈』 1972 采華書林出版

#### 電子テキスト

竹越 孝氏（愛知県立大学外国語学部）入力による『老乞大四種版本対照テキスト』

田村祐之氏（姫路獨協大学外国語学部）入力による『朴通事二種対照テキスト』

#### 参考文献

太田辰夫 1984 『中国古典語文法』改定版（汲古書院）

太田辰夫 1988 『「祖堂集」語法概説』『中国語史通考』（白帝社）

金文京 1988 『和漢比較文学叢書8 和漢比較文学研究の諸問題』（汲古書院）

佐藤晴彦 1994 〈一壁有者〉考，『神戸外大論叢』45-7

梁伍鎮 1998 《老乞大朴通事研究》（太學社）

刘月华 2001 《实用现代汉语语法》增订本（商务印书馆）

吕叔湘 1982 《中国文法要略》汉语语法丛书（商务印书馆）

1999 《现代汉语八百词》增订本（商务印书馆）

孙锡信 1992 《近代汉语研究》（商务印书馆）

孙锡信 1997 《汉语历史语法丛稿》(汉语大词典出版社)

孙玄常 1984 《马氏文通札记》(安徽教育出版社)

章锡琛 1988 《馬氏文通校注》(中華書局)

朱德熙 1982 《语法讲义》(商务印书馆)

· *Svetlana Rimsky-Korsakoff Dyer 2006, PAK THE INTERPRETER An annotated translation and literary-cultural evaluation of the Piao Tongshi of 1677*

· *S Robert Ramsey 1986 "The Language of China"*

· *Yuen Ren Chao, 1968, "A Grammar of spoken Chinese" University of California, Second printing*